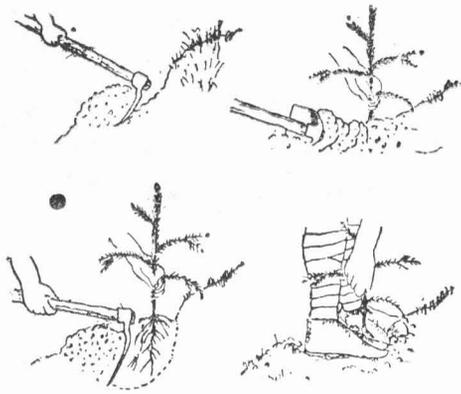


琉球大学学術リポジトリ

苗木の植え付けについて

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 諸見里, 秀宰, Moromizato, Shusai メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/19927 |

苗木の植え付けについて



一、苗木の植え方

苗木を植え付けるにあたり、良質の苗木を選ぶことは極めて大切なことで、植え付けおよびその後の管理をどんなに丁寧に行なつても、苗木の品質が悪ければよい結果が望めないことはいうまでもありません。良質の苗木の生産は、育苗と密接な関係がありますのでここではふれないことにいたします。(苗木のえらび方については拙著一九五六年二月号の本紙を参照されたい)

苗畑から送られた苗木は、梱包をとり直ちに植え付けた方がよいが、やむをえないときは一時林地内の沢沿いの適潤地、あるいは附近の畑地に仮植をしておく。土壌に仮植するときはややもすると乾燥しやすいため、よく根の間に土壌が密着するように注意することが大切です。なお、灌水ができればそれにすることはありません。苗木は藪などで日覆いをして直射日光にあてないように注意しなければなりません。

また、流水中に根を浸漬することは、苗勢をよく維持することができますので手数も省けて簡単でよい方法です。

苗木の数が少なく、僅かな時間内に植栽しうるときは、梱包をとり日影に並べ、如露などで噴霧するだけで十分です。

植え付け前の苗木は、以上の方法で処理し絶対に乾燥させないことが大切です。

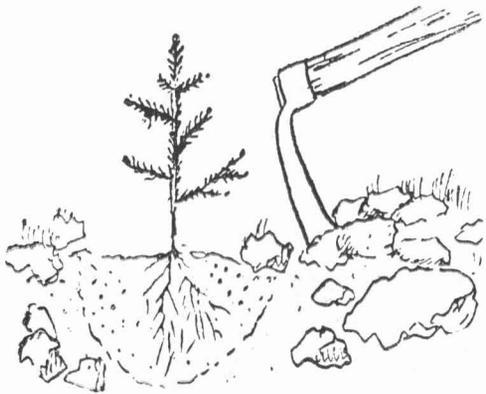
植え付けの際は、苗木からの水分の蒸発を防ぐために地上部を適度に剪定し、地下部も伸びすぎた根や掘り取りの際にいたんだ根は、よく切れるハサミできれいに切る。この際、あまり切りすぎ

ないように注意いたしました。

植え付けにあつて、まず鍬やショベルで植穴を掘る。植穴は、苗木の根のひろがり、および深さよりも広く、そして深く掘らなければいけません。したがつて、植穴のひろさおよび深さは、根のひろがりの大きさおよび根の深さによつて異なりますが、大体五〇―七〇cm位の広さで根の深さ以上に掘ればよい。この際石レキや木片などを除き、土塊はよく砕いておくことが必要です、なお表土は植え付け用土として良いので散乱させないように注意することも大切です。また、植穴は植え付ける以前に掘つて十分に風化させておき、雨の後などを見計らつて植えるようにすることは良い方法です。

植え付け用の土は、つとめて表土を用い、やむをえないときは客土をしなければいけません。

植穴の準備ができましたら、苗木の根を自然の状態ひろげ、決して根を曲げたりしてはいけません。



石れき地における穴の掘り方を示す図

この頃、緑化問題が喧ましく叫ばれると共に、緑化運動が強力に推進されたため、全住民が一段と緑化への関心を深めるようになったことは喜ばしい限りです。

我々の生活を自然の脅威から保護し、情緒豊かな美しい緑の島にするために一本でも多く植樹したいものです。また、木材需要の増大に伴い木材飢饉が叫ばれている現在、その需要に応ずるためにも「木を植える」ことは何はさておいても一番大切なことです。林業が単に国土保全的な見地からだけでなく、先進国ではすでに有利な企業として経営されている今日において、貧しい沖縄から有利な一つの資源を産み出す手段として我々は一本でも多く木を植えるように心がけましょう。

緑化運動に因み、苗木の植え付けについて簡単に説明いたします。

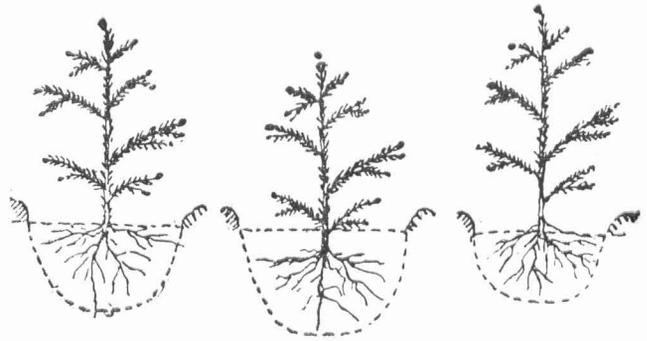
せん。不自然な植え付けはその後の生育に影響いたしません。

次に片手で苗木を垂直に保持しながら、片手で土を四方から少量づつ均等にいれ、指先で固めながら七分位土を寄せる。なお、念のために苗木を少し引き上げて根の位置を自然的に直し、不足の土を寄せて両足または蹴などで軽くふみ固め、手で軽く引ばつてもぬけない程度に土に固着させる。街路樹や造園用に用いられる大径木や貴重木などは、七分位土寄せが済んだ後に十分灌水をし棒などでよくねり固めてから最後の土寄せをする。この方法は主に大径木や貴重木の植え付けの際に用いられる方法で、活着率を良くするために効果がありますから是非行ないたいものです。

なお、植え付けにあたっては植穴に堆肥、厩肥などの有機質肥料や、配合肥料を施肥する方法が最近唱えられています。日本では林業用の基肥として固形肥料なども売り出されております。林地施肥についてはまだ試験の段階にすぎませんが、成長を促進し、強健な成育を望むためには、基肥として有機質肥料や配合肥料などを用いるのは良い方法だと思えます。街路樹や造園樹木は早くから施肥が行なわれております。植え付けるときに、より深目に植穴を掘つて有機質肥料や配合肥料などを施用したいものです。

土寄せは、地表面よりもやや高めに行なつた方がよく、土寄せが少ないと植穴に水がたまり、根腐れをすることがありますのでよく注意しなければいけません。

植え付けの深さは、苗木に生えていたときの根の深さに植えた方が最も適当な深さです。深過ぎると根が腐つたりして生育不良になりやすく、反



植穴に苗の入れ方を示す図（左は正しい植え方中央は深植右は浅植）

対に浅過ぎると乾燥しやすく、また、風のために倒れやすくなります。しかし、甚だ軽しような土壌や砂土などでは、やや深目に植えて安定させることが大切です。強風の多い季節の植樹の際にもこのような注意を怠つてはいけません。

植え付け後は十分に灌水すると共に、苗木の周囲に敷草をしたり、あるいは雑草をはがした芝土をかぶせたりして乾燥を防ぐようにすることが大切です。

風のために苗木が動揺すると根付きが悪くなりますので、苗木の動揺を防ぎ、根付きをよくするために、支柱をたてた方がよいわけです。殊に大径木の場合は丈夫な支柱を立てなければいけません。

以上述べましたような要領で十分に注意して植栽すればほとんど活着いたします。活着率は、苗木の良否、植栽の精粗、植栽時期などによつても異なりますし、また、樹種や品種によつても異なります。殊にモクマオウなどは非常に活着しにくい樹種ですから十分な注意が必要です。活着率をよくするためには、植え付けだけでなく、育苗にも十分な考慮が払われなければいけません。以上一般的な事項について述べましたが、植え付けは植栽場所やその他の条件により、また、樹種によつてやや異なることはいうまでもありません。沖縄林業は、また育林技術が十分に確立されていない現状ですから今後育林技術の確立のためにも活着率をよくするためにも、各樹種について育苗や植栽に関する広汎な研究が行なわれることが必要です。

二、植え付け後の管理

植え付け後はたびたび灌水を行ない乾燥させないよう注意することはいふまでもありません。下刈や除草を行なつて養水分の損失を少なくするとともに、雑草との無益な生存競争を除いてやることはきわめて大切なことです。

街路樹や庭園木などでは、除草と共に中耕を行ない、土壌の通気性を良くすると共に、追肥として配合肥料などを施せば生長を益々良好ならしめます。

沖縄では定期的台風がやつて参りますので台風をこなえて支柱の補強も心がけねばなりません。また、植え付け後の苗木を害虫の被害からまもるために、害虫の防除に心がけることはいふまでもないことです。

せつかく苦心して育成し植え付けた苗木がすくすくと丈夫に育つように、より多く苗木に接触して愛情の交流を図ることは最も大切なことです。